

第12回： 水の循環 — 私たちの生活を支える水の来し方行く末

開催日： 2003年8月29日 / 会場： 「きゅりあん・イベントホール」

開催趣旨： ごく身近でありながら意外に知られていない「水」と私たちの生活・環境の関係についてとりあげます。蛇口をひねれば出てくる水、使った後は何処へともなく消えていく水、現在の日本に暮らす私たちは、渇水や洪水でも起きない限り、「水」を意識することはほとんどありません。しかし、生活を支える水を供給すること、生活を支えた水を処理することは、実は普通の人が思っているほど簡単ではありません。水が何処から来て、何処へ行くか、どうなるのか、その現状や問題、今後について、市民、学生、生徒と共にもう一度よく考えるきっかけとなる情報の提供を目的としています。本セミナーは以上の内容を判りやすく解説するもので、総合学習における教材ともなり得ます。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

○ **水資源を考える — 水源山地の森林がもたらす水の量と質について**（鈴木雅一／東大院・農生命科学）

森林と水の密接な関係について、日本の森林の変化、森林が与える『水量』（「緑のダム」効果）と『水質』への影響等について解説し、森林環境と水環境を一体化した理解の重要性を提言した。

○ **飲む水を得る — 水道とミネラルウォーター —**（小林三樹／藤女子大院・人間生活学）

1系統で飲用にも雑用にも使える日本の高度な水道レベルは、世界的にも稀である。しかし、その水道水を飲まない人が増えている。水道水質を左右する「3つの関門」、ミネラルウォーターの成分とおいしさ・健康効果との関係について解説する。

○ **河川上流の水洗化の意味 — トイレと川の話 —**（村上光正／姫路工大・工）

文化的生活をおくるのに必然とされてきた水洗トイレ。しかし、水洗化されたトイレからの排水は、分解されにくい窒素・リンを含み、河川や海の汚濁は進んでいく。合流式下水道や浄化槽の問題点等について解説する。

○ **水の流れていく先 — 水質汚濁問題 —**（齋藤治子／(社)全国建築物飲料水管理協・神奈川県支部）

昭和45年に制定された「水質汚濁防止法」により、水の利用目的に合わせて水域ごとに環境基準が定められている。「河川」「海域」「湖沼」の基準達成率、及び関東近辺の水域における現状について解説する。

○ **環境問題と水 — 公害問題の対処の歴史 —**（市川新／福岡大院・工）

公害問題とそれに対応して定められてきた水の環境基準の歴史について論じる。また、上水道・下水道の目的・種類・処理方法、窒素・リンによる富栄養化の問題・対応策の必要性について解説する。